

ポーラ化成工業が MIT メディアラボのコンソーシアムへ参画 肌と感情の関係性解明を目指すプロジェクトからコラボレーションをスタート

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：釘丸和也）は、グループの創業 100 周年となる 2029 年を見据えた新中期経営計画の実現に向け、マサチューセッツ工科大学メディアラボ^{※1}（以下、「MIT メディアラボ」）の「コンソーシアム^{※2}・ラボ・メンバー」（以下、「CLM」）に参画いたします。

今回の CLM への参画を通して、最先端の技術・研究との融合を図り、ポーラ化成工業が目指す「妙なる^{※3}価値の創造」実現に向けて邁進いたします。



ポーラ化成工業 本社・横浜研究所

コンソーシアム活動の概要について(予定)

1. 肌状態の測定技術と感情分析技術を組み合わせ、両者の関係性解明の可能性を模索します。
2. 異分野の研究者との交流・ディスカッションを促進し、新たなアイデアの創出を目指すとともに、最先端の技術や思想に触れることで組織の活性化を図ります。

経緯

ポーラ・オルビスグループは、2029 年に向けた長期的な成長を目指し、今年度より新グループ理念として「感受性のスイッチを全開にする」を策定するとともに、新たな長期ビジョンの実現に取り組んでいます。

今後はさらに、グループの強みである「感性溢れる独自価値の提供」を強化するため、これまで以上に最先端・異分野の様々な外部機関との連携を図り、オープンイノベーションを強化・推進していきます。

※1:MIT メディアラボ:米国マサチューセッツ工科大学内の学術研究機関(所長:伊藤穰一氏)。既存の研究の枠を超えた学際的・実践的な研究が多く、テーマは、感情センシング技術、拡張現実、光遺伝学や新しいインターフェースなど多岐に渡る。デザインやアートの要素をもつ研究テーマが多い。

※2:ある目的のために複数の個人や法人、団体が集まり結成される 組織・団体。

※3:妙なる=言葉に言い表せない、この世のものとは思えないほど素晴らしい。